

説教余滴、2018年9月9日

9月になりました。猛暑の夏でした。かつては、30度を超えることが珍しかったと記憶します。20年以上前、7月のある朝、港区白金の学校へ行くため、岩槻の駅に立ち、電車を待っていました。ネクタイに夏のスーツ、汗もかいていません。そのとき感じたのは、「今から20年前、これが普通だったよな、暑くなったものだ」。

終戦の年、暑い夏でした。東京の郊外・練馬、麦と大根、野菜の畑。ところどころに大きな木立が。大百姓の家や神社仏閣、などの屋敷林です。田園的な「ふるさと」を思わせる光景が広がっていました。暑い、と言ってもさわやかな風が吹いていました。それも朝鮮戦争まででした。あの戦争は、特需をもたらし、戦後日本の復興を推し進める力となりました。郊外の風景はどんどん変わりました。小学校5年生からは、山手線大塚駅南口に転居。まだ焼け跡が残っていました。

9月2日の朝、前日は夕刻までセミが精一杯、鳴いていました。たいへん静かな朝となりました。セミが鳴かないのです。夕刻、秋の虫の合唱。台風と共に秋が帰ってきたか、と感じたものです。気温もこれまでに比べて低めでした。3日、アブラゼミ、4日、ツクツクホーシ、それぞれの死骸を見つけました。季節の主役交代を実感しました。

クマゼミは大昔の温暖期（縄文時代など）には南関東の広域で棲息していたが、寒冷期（弥生時代以降）になって南関東の大部分でクマゼミが死滅し、冬でも比較的温暖な房総半島南部や三浦半島南端のみ（特に城ヶ島）に生き残るだけとなった、とされています。／これは、温暖期に北海道の広域でミンミンゼミが棲息していたが寒冷期になって、冬でも比較的温暖な道南や地熱の高い屈斜路湖の和琴半島のみ生き残ったのと同じ原理です。そして、再び／現在の温暖期になり、南関東の広範囲でクマゼミが棲息可能地域となりました。さらに近年の急速な温暖化とあいまって、クマゼミの北上・東進が目立っています。特に茅ヶ崎・平塚や横須賀市南部（これは生き残り？）、あるいは北陸の金沢は、最前線に近い地域となっています。